

交流人口

未来そうま
杉本智美議員



問 交流人口の増加を見込める新たな施策について問う。

答 今後整備される施設を活用した事業を視野に入れ、関係機関との連携を図っていく。

本市においては交流人口の拡大に向け、施設整備などに取り組んでおり、震災以降、交流人口の数は順調に伸びてきているが、交流人口を常に増加させる事は非常に困難であると考える。

著しい減少がある場合、事業内容の見直しも考えなくてはならない。

新たな施策を実施する考えについて問う。

問 交流人口の増加を見込める新たな施策について問う。

答 今後整備する水産物等直売施設や尾浜地区復興交流広場、再開が見込まれる原釜尾浜海水浴場、建設を

進める仮称スポーツアリーナそうま第2体育館を活用した大会の誘致、東北中央自動車道の全線開通を視野に入れながら、相馬商工会議所等の関係機関及び団体との連携を初め、市民一丸となつて交流人口の増加に向けて取り組んでまいりたい。

問 相馬駅を起点とした観光・交流について問う。

答 現在、JR常磐線は富岡・浪江間が不通となつていことから、現段階において、相馬駅が観光交流の起点となる状況にはないものと考えているが、震災以前には、お座敷列車やパークゴルフ



フ列車などの商品を企画し、観光客を誘客してきたことから、今後のJR常磐線の全線開通の時期を踏まえ、JR東日本と連携して、相馬駅を利用した観光企画を検討していく。

その他の質問
・旧庁舎解体後の活用
・相馬市長マニフェスト
検証会

非正規職員の現状と待遇改善

問 非正規職員の待遇改善について問う。

答 国の制度の導入にあわせて待遇の改善を図っていく。



そうま維新
根岸利宗議員

全国的に非正規雇用と正規雇用の格差は広がり、また、非正規雇用の割合は4割を越えているとのことだ。

非正規雇用の待遇改善は必須であり、現在政府も「働き方改革」なるものを強く打ち出している。

問 非正規職員の待遇改善について問う。

答 期末手当や退職手当の支給などを規定した会計年度任用職員制度の導

入にあわせて、非正規職員の賃金や手当等の改善を図っていく。

また、非正規職員を含む職員のメンタル面での対応として、ストレスチェックやメンタルヘルス研修を実施するとともに、産業医などに面談できる機会を設けている。

問 非正規職員の現状について問う。

答 一般行政事務の補助員を初めとして、用務員、給食調理員などの単純労働職員に非正規職員を雇用しており、東日本大震災以降、全国からの派遣職員に加え、非正規職員を雇用して、復旧、復興

事業の業務量増加に対応してきた。近年、市立幼稚園、小・中学校の通常学級で日常生活上、介助等のサポートを要する園児、児童・生徒の在籍者増加により、特別支援教育支援員の雇用がふえている。

平成29年11月1日現在、市が雇用している非正規職員の数は、教育委員会104名、市長部局64名、農業委員会2名の合計170名となっている。

その他の質問
・介護、福祉、医療の連携
・災害公営住宅の払い下げ